

# 流体筋膜論

「流体筋膜論」を説明するのにもっとも重要である『筋膜』について、先に説明させて頂きたいと思います。

『筋膜』は、皮膚でもなく、筋肉でもなく、勿論骨でもありません。

『筋膜』は、蛋白質(コラーゲン組織)でできています。その為に変形・変質をしやすく、外部からの影響を受けやすい組織になります。



皆さんの身近で例えると、手などを壁に思わずぶつけた時、ぶつけた箇所が熱くなったりしませんか？この熱でも筋膜には影響をきたすのです。

そして肩こりも、日頃から腕の重さに引かれ腕から肩、首の『筋膜』が伸ばされている為に正常なリンパ液の流れが失われ、更に肩を叩いたり揉んだり繰り返す事によって毛細血管がやぶれ、内出血を起こしその為、炎症が起こる。炎症を起こすということは、その箇所に熱が発生していることを意味します。このような事を何年、何十年間繰り返していると、本来、乳白色でさらさらしている正常なリンパ液も変色して、粘性を持った状態に変性してくる。更にそのまま年月が過ぎていくと、悪性腫瘍まで行かなくても、取り返しのつかない状態になり、様々な病気の原因や引き金になってしまいます。(参照図：1)

このような身近な日常生活の繰り返して影響がでる、繊細な筋膜の性質に着目したのが「流体筋膜論」になります。

この療法の重要点は、私の考案した筋スラッキング療法・筋膜アジャストメント・クライオセラピー・オステアローザ・キネシオテーピング療法を総括して「加瀬療法」とした治療方法で、あらゆる角度から皆さんの状態を診断し問題がある『筋膜』に着目して、治療を施し水分をたくさん含んだ良い状態にできるのです。

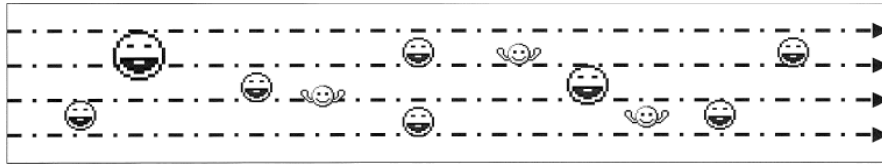
この治療により、『筋膜』間に潤いを生み、筋肉の軽快な動きや体全体への血液や栄養の運搬、停滞物質の排出などがスムーズに行われるようになります。

いわば、『筋膜』はわかりやすく例えると体の洗濯機で、体の中の停滞物質や古くなって粘性化した発痛物質、炎症物質を流して綺麗にしてくれるのです。

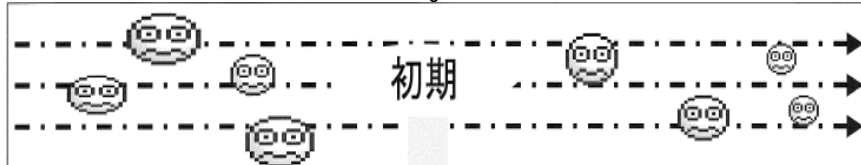
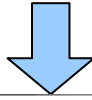
良い筋膜は皆さんの健康につながるのです。

(参照図：1)

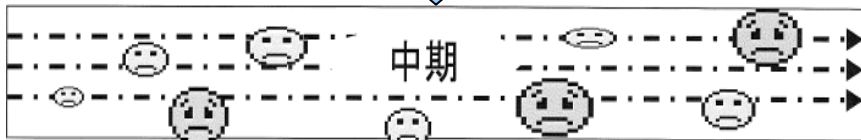
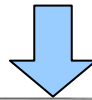
### 正常な筋膜を流れるリンパの状態



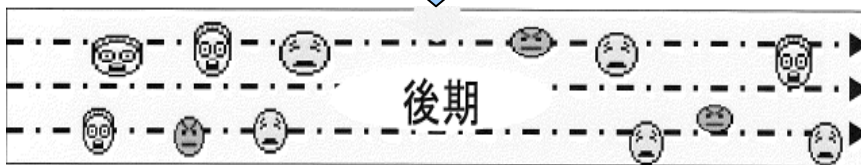
乳白色でさらさらしている!!!



変色してバター状になってくる!



流れなくなってくるとヨーグルト状にドロドロになってくる!!!



時間が経過すると、カッテージチーズ状に凝固しはじめる（腫瘍、動脈硬化の始まり）に・・・



炎症、内出血の繰り返しにより、燃えカス（活性酸素）が腐った果物のように黒褐色の塊になる。

上記の参照図：1のように放っておくと問題がある箇所は、炎症の塊となり薬などでは沈着できるような状態ではなくなってしまいます。

多くの医療関係者や施術者の方々は『筋膜』とは、厚い・硬いと思い込んでいるようで、押ししたり、引っ張ったり、叩いたりする施術などによって状態を良好にしようとしていますが、これは逆に患者様の症状を悪化させたり、もっと複雑な病状に発展させてしまう可能性もあります。

どこが・どんなふうになるか・その原因はなにか・そしてどのような治療をするかを皆様の立場に立って、触診し最も最適な治療をするのが私の治療スタンスです。

この治療スタンスのもと、皆様に「流体筋膜論」を通して、体の状態をいかに良好に保てる為には？を理解頂けると幸甚に存じます。